

第4回テーマ 広重 一摺の極ー あべのハルカス美術館開館10周年記念

【事前学習】

〈日時〉2024年7月23日

〈場所〉高槻センタービル街3F

〈講師〉あべのハルカス美術館上席学芸員

藤村忠範 先生

〈内容〉あべのハルカス美術館で開催されている

「広重一摺の極ー」の広重の魅力 みどころ紹介

初摺の魅力について話していただきました



はじめに 約330点 前後期1点以外全部入替 通期展示は三代歌川豊国「広重の死絵」のみ
レスコヴィッチコレクションより269点 国内9か所より69点 総数338点
あべのハルカス美術館 浅野秀剛館長の企画

歌川広重 1797年 江戸八代洲河岸定火消屋敷の同心の子として生まれる

13歳父母亡くなる 火消同心の職継ぐ 36歳 火消同心職引退 37歳「東海道五拾三次」

第1章 雌伏の時代 文政期(1818~30)

「外と内姿八景 格子の夜雨・まかきの情らむ」「江戸の花 大江山酒吞童子」

「やうきひ桜」花押があるのは1枚のみ

第2章 名所絵開眼 天保(1830~44)前期の名所絵

「東都名所 高輪之明月」一幽齋がき大判錦絵10枚

「東海道五拾三次之内 日本橋朝之景」異版は空の雲が無くなっている

「東海道五拾三次之内 蒲原夜之雪」天の一字ぼかし 後版は空が違う

「東海道五拾三次之内 丸子名物茶店」丸子→鞠子 丸子汁がおいしい

「東海道五拾三次之内 池鯉鮒首夏馬市」「東海道五拾三次之内 庄野白雨」「近江八景之内 比良暮雪」

第3章 名所絵の円熟 天保(1830~44)中後期の名所絵

「木曾海道六拾九次」第1群 いい図が多い→木曾街道 京 大坂 丸亀へ旅行→第2群 写生をもとにしている

「木曾海道六拾九次之内 中津川」後版→雨が無くなって晴れになった

第4章 堅型名所絵の時代 弘化から没年(1844~58)

「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」「名所江戸百景 浅草田圃西の町詣」

「名所江戸百景両国花火」「名所江戸百景深川洲崎十万坪」桶狙っている 嘴がグラジュエーション→2色

「名所江戸百景亀戸天神境内」後版→ぼかしが無くなっている

第5章 広重の花鳥画 「月に秋草」団扇絵世界でこの1枚のみ現存 (魚づくし) あわび・さよりに桃

第6章 美人画と戯画 「今様四季の艶 秋の部月の宴」 「東都名所 両国夕すゞみ」

「即興図尽し 入ふね」「即興蔭ぼし尽し 茶わんちや台」「即興かげぼしづくし ふじの山」

「即興図両づくし らんかんぎぼし」「浄るり町繁花の図 焼酎売ほか」

第7章 多彩な活動 「国尽張交図会十一越中越後佐渡」「江戸名所張交図会飛鳥山眺望猿若町番立小金井堤」

参宮上京道中一覽双六(袋付) 日本橋→伊勢→京都

彩色摺千社札(二丁札)「東海道五十三次 京都三条大橋」「東海道五十三次 皇城大尾」

第8章 肉筆画の世界 「西遊記異形図会 金角大王孫悟空」「京嵯峨渡月橋夜ノ花」

「甲府道祖神祭幕絵 東都名所目黒不動之瀧」 横幅10mの大作

初摺りの素晴らしさを教えていただきました 後摺との違い 間違い探しのようで面白い

元があるもの 参考にしたものも教えていただき更に興味深かった 大和文華館も訪れてみたい

【鑑賞会】

〈日時〉 2024年7月30日

〈場所〉 あべのハルカス美術館

あべのハルカス 16階

美術館前に9時45分集合

10時開館ですが盛況混雑のため
早めに集合



入口



案内チラシ

順路→の掲示はあるが自由に観覧を
とのことで見やすいようにまわりました
写真撮影は一部を除いてNGなので心の中に
写しました



チケット

版木から最初に摺られた初摺ならではの
鮮やかな青（ペロ藍）・朱（紅）

摺でのぼかしや細かいところもこれが版画？と見入りました

独特の構図や戯画も斬新で面白く 世界で一枚しか現存しない団扇絵もあり
お茶漬けのりのオマケで知っていたけど 知っているようで見たことないも
のもたくさんあり 雪・月・花・風・渦潮・武者絵の髑髏も印象的でした
美人画・花鳥画・団扇絵・双六・絵封筒・短冊・千社札・幕絵など多種多様
初期から晩年まで一堂にみられて堪能できました 後期も観てみたい



PHOTO SPOT

----- 撮影OKの写真から -



「木曾海道六拾九次之内 洗場（せば）」

横大判錦絵 70枚揃の内

ジョルジュ・レスコヴィッチ氏蔵

わずかに赤く染まった空に大きな月がかかる
水辺の柳も風を受けて傾き
月も空も草木も水も人も家々も寂しく美しく
心に沁みいるよう =説明書きより=



「木曾海道六拾九次之内 中津川」

横大判錦絵 70枚揃の内

ジョルジュ・レスコヴィッチ氏蔵

俗に「雨の中津川」といわれ非常に珍しい作品
早い時期に版木が破損したので新たに別の「中津川」
（晴れの中津川）を制作したという説が有力
=説明書きより=



金沢八景 瀬戸秋月



金沢八景 称名晩鐘



木曾海道六拾九次之内 高崎



木曾海道六拾九次之内 小田井

いずれもジョルジュ・レスコヴィッチ氏蔵



PHOTO SPOT で集合写真